岩手県立盛岡農業高等学校

令和7年度 年間指導計画

整理番号 12

A科:動物科学科　B科:植物科学科　C科:食品科学科　D科:人間科学科　E科:環境科学科

教　科	数学	科　目	数学A	単位数	2	学年・学科	2学年・全学科
教科書	最新　数学A	副教材	パラレルノート数学A、スタディアップノート数Ⅰ				

学習目標	図形の性質，場合の数と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と日常生活について認識を深める。また、事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。
学習方法	協同学習から学び合う態度を養いつつ、知識・理解の定着のため小テストを適宜実施します。また、家庭学習定着のため、副教材と課題プリントを活用した家庭学習課題を出題します。

学習評価		評価の観点	評価の観点の趣旨
	a	知識・技能 （専門教科は知識・技術）	図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
	b	思考・判断・表現	図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察する力を養う。
	c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

		重み付け	考査	考査外
		100%	60%	40%
前期中間	知識・技能(技術)	35%	30%	5%
	思考・判断・表現	35%	30%	5%
	主体的に学習に取り組む態度	30%	0%	30%
		100%	60%	40%
前期末	知識・技能(技術)	35%	30%	5%
	思考・判断・表現	35%	30%	5%
	主体的に学習に取り組む態度	30%	0%	30%
		100%	60%	40%
後期中間	知識・技能(技術)	35%	30%	5%
	思考・判断・表現	35%	30%	5%
	主体的に学習に取り組む態度	30%	0%	30%
		100%	60%	40%
後期末	知識・技能(技術)	35%	30%	5%
	思考・判断・表現	35%	30%	5%
	主体的に学習に取り組む態度	30%	0%	30%

学期	単元名（題材）	学習内容（小単元）	評価の観点 a	評価の観点 b	評価の観点 c	単元の評価規準	評価方法
前期中間	（数学Ⅰ） 第4章　図形と計量	三角比の意味やその基本的な性質について理解し，三角比の相互関係などを理解できるようにする。また，図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し，正弦定理，余弦定理などを活用して問題を解決したりする力などを培う。	○		○	三角比の相互関係を用いて，三角比の1つの値から残り2つの三角比の値を求めることができる。	・授業態度 ・授業課題 ・小テスト等 ・定期考査
				○	○	座標を用いた鈍角の三角比の定義を理解している。θの三角比が与えられたときにθを求める際，図を積極的に利用しようとする。正弦定理や余弦定理を用いて，測量問題が解決できる。	
	第5章　データの分析	データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力を養う。			○	データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。	
前期末	第1章　場合の数と確率 第1節　場合の数	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			具体的な問題を通じて，どのような場合に順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。	・授業態度 ・授業課題 ・小テスト等 ・定期考査
				○		ベン図を利用して集合を図示することで，要素の個数を考察することができる。	
	第2節　確率	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。			○	組合せの考え方を利用して，図形の個数や同じものを含む順列の総数などが求められることに興味・関心をもつ。	
後期中間	第2節　確率	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			積事象，和事象の意味を理解し，具体的な事象に対して，積事象，和事象を集合で表すことができる。	・授業態度 ・授業課題 ・小テスト等 ・定期考査
				○		2つの独立な試行を行うとき，その結果として起こる事象の確率について考察することができる。	
	第2章　図形の性質 第1節　三角形の性質	三角形の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする		○	○	図形の性質を証明するのに，間接的な証明法である同一法を適用することができる。	
後期末	第2節　円の性質	円の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	○			円周角の定理の逆を用いて，4点が同一円周上にあることを調べることができる。	・授業態度 ・授業課題 ・小テスト等 ・定期考査
	第3節　作図	作図についての理解を深め，作図の各過程において平面図形のどの性質を用いているかを考察できるようにする。		○		作図の各過程において，平面図形のどの性質を用いているかを考察できる。	
	第4節　空間図形	空間図形の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。			○	正多面体が5種類である理由に関心をもち，その理由を調べようとする。	